

町田 健教授略歴・業績

〈略 歴〉

昭和32年3月27日 福岡県甘木市（現朝倉市）に生まれる

学 歴

昭和50年3月 久留米大学附設高等学校卒業
昭和50年4月 東京大学文科3類入学
昭和54年3月 同 文学部言語学専修課程卒業
昭和54年4月 東京大学大学院人文科学研究科言語学専門課程修士課程入学
昭和56年3月 同 修了
昭和56年4月 東京大学大学院人文科学研究科言語学専門課程博士課程進学
昭和61年4月 同 単位取得退学

職 歴

昭和61年4月 東京大学文学部助手
平成元年11月 愛知教育大学教育学部助教授
平成4年4月 成城大学文芸学部助教授
平成8年4月 北海道大学文学部助教授
平成10年4月 名古屋大学文学部教授
平成12年4月 名古屋大学大学院文学研究科教授（組織変更による）
平成14年4月 名古屋大学教養教育院統括部兼任（平成16年3月まで）
平成16年4月 名古屋大学教養教育院統括部兼任教員（平成17年3月まで）
平成17年4月 名古屋大学大学院文学研究科副研究科長（平成18年3月まで）
平成18年4月 名古屋大学大学院文学研究科長・文学部長（平成20年3月まで）
平成18年4月 名古屋大学評議員（平成29年3月まで）
平成22年4月 名古屋大学教養教育院統括部専任教員（平成26年3月まで）
平成23年4月 名古屋大学留学生センター長（平成25年9月まで）
平成25年10月 名古屋大学国際教育交流本部国際教育交流センター長（平成28年2月まで）
平成28年3月 名古屋大学国際機構国際教育交流センター長（平成29年3月まで）
平成28年3月 名古屋大学国際機構副機構長（平成29年3月まで）

学 位

昭和56年3月 文学修士（東京大学）

学会活動

- 平成14年～現在 日本言語学会評議員
 平成22年～現在 日本ロマンス語学会理事
 平成22年～26年 日本歴史言語学会理事

〈業 績〉

単 著

- 1 『フランス語文法総解説』 2015年12月、研究社
- 2 『ロマンス語入門』 2011年12月、三省堂
- 3 『言語構造基礎論』 2011年10月、勁草書房
- 4 『変わる日本語その感性』 2009年5月、青灯社
- 5 『日本語の正体』 2008年10月、研究社
- 6 『チョムスキー入門』 2006年2月、光文社
- 7 『ソシユールと言語学』 2004年12月、講談社
- 8 『ソシユールのすべて一言語学でいちばん大切なこと』 2004年2月、研究社
- 9 『ソシユール入門』 2003年8月、光文社
- 10 『英語のしくみがわかる言語学講義』 2002年11月、研究社
- 11 『まちがいだらけの日本語文法』 2002年7月、講談社
- 12 『言語学のしくみ』 2001年10月、研究社
- 13 『言語が生まれるとき、死ぬとき』 2001年1月、大修館書店
- 14 『日本語のしくみが分かる本』 2000年11月、研究社
- 15 『生成文法がわかる本』 2000年1月、研究社
- 16 『言語学が好きになる本』 1999年1月、研究社
- 17 『日本語の時制とアスペクト』 1989年10月、アルク

編 著

- 1 『ヨーロッパのおもしろ言語』 2010年7月、白水社

翻 訳

- 1 『新訳一般言語学講義』（フェルディナン・ド・ソシユール著）2016年8月、研究社
- 2 『言語と精神』（ノーム・チョムスキー著）2011年5月、河出書房新社
- 3 『イエラムスレウ』（セミル・バディル著）2007年3月、大修館書店

論 文

- 1 「文が表示する事態の時間的特性を決定する過程について」 2010年、『東京大学言語学論集』 vol. 28, pp. 155-182
- 2 “Arbitrariness and the syntax of signs” 2008年、*NCKU Monograph Series vol. 1. Language across Cultures*, pp. 223-243

- 3 「ソシユールの継承者—イエラムスレウと言理学—」2007年、『言語』第36巻5号、pp. 66-73
- 4 「言語テキストの構造と生成」2007年、『統合テキスト科学の地平』（21世紀COEプログラム「統合テキスト科学の構築」最終報告書）、pp. 117-157
- 5 「言語を支配する原理としての効率性」2006年、『言語基礎論の構築へ向けて』（峰岸真琴編）東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、pp. 27-50
- 6 「テキストの種類と構造」2006年、Multimodality: Towards the Most Efficient Communication by Humans. Proceedings of the Sixth International Conference. Studies for the Integrated Text Science, pp. 135-142
- 7 「名前とは何か」2005年、『言語』第34巻3号、pp. 22-29
- 8 “Theoretical Basis for Analyzing Texts” 2004年、『SITES (Journal for the Integrated Text Science)』第2巻1号、pp. 167-178
- 9 “Arbitrariness and the syntax of signs” 2003年、『SITES (Journal for the Integrated Text Science)』第1巻1号、pp. 201-241
- 10 「文の中での動詞の役割」2002年、『言語』第31巻11号、pp. 32-39
- 11 “Quantitative approach to semantico-syntax” 2002年、『エネルギー』vol. 27、pp. 68-91
- 12 「外国語との対照から時制をとらえる」2001年、『言語』第30巻13号、pp. 18-25
- 13 “Word order of nouns and relative clauses” 2001年、『名古屋大学言語学論集』第17巻、pp. 157-170
- 14 「形態素列の表示する事態の個数と形態素配列規則」2000年、『名古屋大学言語学論集』第16巻、pp. 263-279
- 15 “Emergence of the structure of language” 2000年、『Verba』vol. 2 No. 1、pp. 1-11
- 16 「数量詞遊離の適格性を決定する要因について」2000年、『名古屋大学文学部研究論集—文学』第46巻、pp. 55-65
- 17 「主体を表す「は」と「が」の意味的機能について」1999年、『名古屋大学言語学論集』第15巻、pp. 197-245
- 18 「動詞の分類」1998年、『哲学』、pp. 1-24
- 19 「比較級・最上級の意味論」1998年、『言語』第27巻3号、pp. 71-76
- 20 「形容詞の意味について」1997年、『北海道大学文学部紀要』第45巻3号、pp. 247-272
- 21 「文の意味表示の方法について」1996年、『名古屋大学日本語・日本文化論集』第4号、pp. 1-25
- 22 「フランス語の冠詞の意味」1996年、『ヨーロッパ文化研究』第15号、pp. 64-94
- 23 「言語記号の恣意性の必然性について」1995年、『東京大学言語学論集』第14号、pp. 481-506
- 24 「言語における構造と体系の存在証明の試み」1994年、『成城大学文芸学部四十周年記念論文集』、pp. 210-224
- 25 「時の分類」1993年、『言語』第22巻10号、pp. 58-65
- 26 「フランス語の時制・アスペクト・動作態」1993年、『ヨーロッパ文化研究』第12号、pp. 41-63

- 27 「時制・アスペクト・動作態の形式的記述」1992年、『日本語研究と日本語教育』名古屋大学出版会、pp. 77-93
- 28 「ラテン語の接続法の意味について—従属節の場合—」1992年、『京都産業大学国際言語科学研究所所報』第13号、pp. 168-187
- 29 「主節におけるラテン語の接続法の意味について」1991年、『ロマンス語研究』第25号、pp. 93-101
- 30 “Tense Usage in *Erec et Enide*” 1988年、『東京大学言語学論集 '88』、pp. 255-278
- 31 “La disparition du Passé Simple en français” 1987年、『ロマンス語研究』第21号、pp. 31-42
- 32 「ロランの歌における時制使用の傾向について」1987年、『東京大学言語学論集 '87』、pp. 9-27
- 33 “La distribution des temps verbaux dans le texte en ancien provençal” 1985年、『言語研究』第91号、pp. 56-83
- 34 “L'emploi des temps du passé dans *Fierabras* provençal” 1985年、『東京大学言語学論集 '85』、pp. 73-91
- 35 「古フランス語における単純過去の半過去の使用の由来」1985年、『ロマンス語研究』第18号、pp. 25-36
- 36 「古仏語における前過去の統語的環境の制限の原因について」1984年、『東京大学言語学論集 '84』、pp. 161-172
- 37 “The Regression of the Passé Simple in Old French” 1983年、『言語学演習 '83』、pp. 144-154
- 38 「イタリア語の過去未来について」1983年、『イタリア学会誌』第32号、pp. 97-116
- 39 「現代フランス語の時制の一致について」1982年、『言語学演習 '82』、pp. 163-171
- 40 「聖アレクシス伝における半過去」1981年、『言語学演習 '81』、pp. 142-153